



全国でただひとつの医科大学附属高校です

# 川崎医科大学附属高等学校

〒710-0002 岡山県倉敷市生坂1661 phone 086-462-3666  
http://www.kawasaki-m.ac.jp/highschool/

川崎医科大学 〒701-0192 岡山県倉敷市松島577 phone 086-462-1111  
川崎医科大学附属病院 〒701-0192 岡山県倉敷市松島577 phone 086-462-1111  
川崎医療福祉大学 〒701-0193 岡山県倉敷市松島288 phone 086-464-1004  
川崎医療短期大学 〒701-0194 岡山県倉敷市松島316 phone 086-464-1033  
川崎リハビリテーション学院 〒701-0192 岡山県倉敷市松島672 phone 086-462-1111



外国でも通用するドクターになること。  
それが、私の夢なんです。

Feiko Fujisawa  
藤澤麗子さん  
1999年生まれ、川崎医科大学附属  
高校2年。藤澤家4人兄弟の次女。

それは、全国唯一の  
「医師をめざすための高校」。

岡山県倉敷市にある川崎医科大学附属高校は、「医師をめざすための高校」として全国に知られている。男女ともに全寮制。大学からではなく、高校の3年間からドクターに向けての基礎的な素養を叩き込む。その名の通り、全国で唯一の「医科大学の附属高校」である。

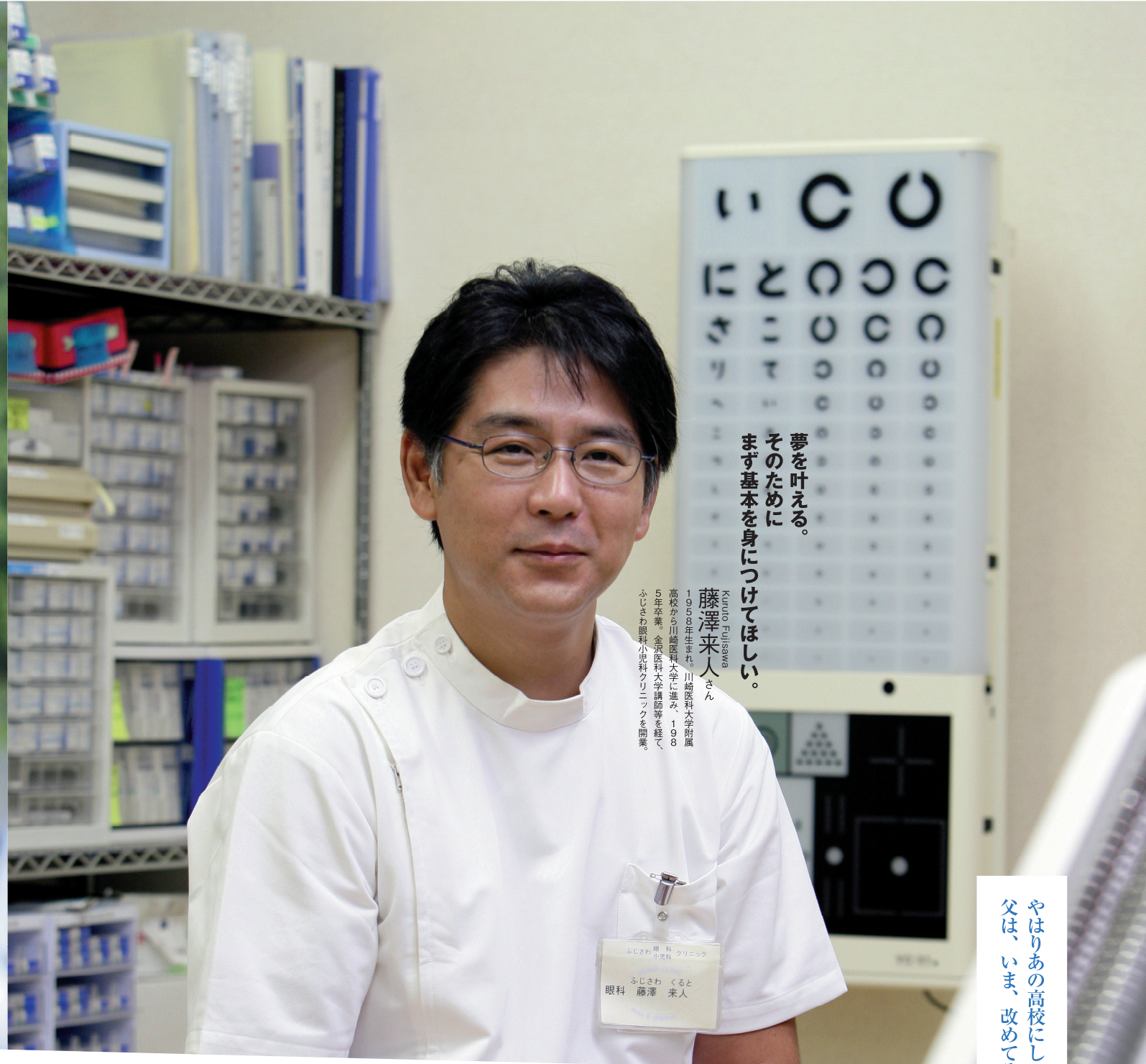
常に基本を忘れない。  
その姿勢が医療を支えている。

「一人前の医師になったら、国境なき医師団に参加してみたい。外国でも通用するドクターになること、それが夢なんです」  
屈託のない娘の笑顔を見て、父は静かに口を開いた。

「昔、先輩のドクターがよく言っていました。『基本をしつかりやっていたら怖いものはない』と。とても含蓄のある言葉です。たとえば、いねいに仕事を。きちんと患者さんと向き合う。そんな当たり前のことが医療の現場を支えているんです。夢を持つことはいい。でも、そのためにはまず基本をしつかり叩き込むこと。娘には、本当に良いドクターになってほしいです。から」

その言葉を静かに聞いていた娘。その眼に宿った確かな光を、眼科医はしっかりと見据えていた。

歩いてきた。追いかけている。  
いつか二人は、同じ道を進んでいた。



夢を叶える。  
そのために  
まず基本を身につけてほしい。

Kunio Fujisawa  
藤澤来人さん  
1958年生まれ、川崎医科大学附属  
高校から川崎医科大学に進み、198  
5年卒業。金沢医科大学講師を経て、  
ふじさわ眼科小児科クリニックを開業。

やはりあの高校にしてよかった。  
父は、いま、改めてそう思う。

「目に入れても痛くない」娘を見つめる父の眼差しに、そんな言葉が想い起こされた。その父には、いまも娘がヨチヨチ歩きたった頃の写真が忘れられない。――あの小さかった娘に医者が務まるのだろうか。  
以前は、そんな心配ばかりが胸をよぎった。しかし、高校生活も2年目になって、「なんとかかなるかな」と思えるようになってきた。やはりあの高校にしてよかった。父は、いま、改めてそう思う。

知識、技術、人間性。  
医師には無限のチカラが求められる。

ふじさわ眼科小児科クリニック  
藤澤来人さんは、眼科医。金沢市で、「ふじさわ眼科小児科クリニック」を開業している。開業医になって6年目。小児科医の妻と二人三脚で病院経営を続けてきた。そんな父に娘の麗子さんが「医者になりたい」と告げたのは、彼女が中学2年の頃だった。  
うれしかった。が、やはり不安もあった。知識、技術、経験、そしてなによりも人間性。医師に求められるものは無限とわかっていい。果たして娘は、その「無限の世界」に進むことができるだろうか。